

宮城県登米総合産業高等学校 農業科 作物専攻班

平成7年に、前身である宮城県上沼高等学校で「環境にやさしい米作り」を開始し、四半世紀に渡り環境保全型農業に取り組んでいる。

代表者名：校長 高橋 清幸
所在地：宮城県登米市
品目：米

面積：2.4ha
構成員：6名

取組の紹介

【地球温暖化抑止や生物多様性保全等の取組】

- 種子の温湯消毒や紙マルチ、合鴨農法等の環境負荷低減技術を取り入れながら、環境保全米（減農薬・減化学肥料）を栽培。

【効率的な生産に向けた取組】

- 平成30年及び令和元年には、企業の協力を得て水稻の密苗栽培に取り組み、育苗箱の削減及び育苗面積の節約、移植作業の時間短縮等を実現。

【安定出荷・販路確保の取組】

- 平成29年から、岩手県の企業と連携し、生産した環境保全米を使用した日本酒製造に着手。銘とラベルデザインは生徒のアイデアにより作成される等、加工を通じた高付加価値への取組を実践するとともに、地産地消にも貢献。

【情報伝達の取組】

- 市内の小中学校を対象とした出前講座の実施により、環境保全型農業の理解促進に寄与。

【人材育成活動】

- 卒業生が地域の環境保全米の栽培におけるリーダー的存在として活躍する等、長年に渡る環境保全米の取組は、地域の人材育成に貢献。



作物専攻班の生徒と教職員



収穫作業の様子



環境保全米を使用した日本酒

ホームページ